

令和4年度事業報告書 <白楽荘みくに湊・短期入所生活介護>

**テーマ：非常災害（感染症・自然）の避難計画に基づき、安全・安心あるサービスの提供と
人材の確保に努める**

～安心して働ける職場として利用者・職員双方への優しいケアの実現～

**サブテーマ：入所者の思いに寄り添い信頼関係を築き、職員が能力を発揮できるような働きやすい
環境整備に努める**

1. 入居者の安心と安全なサービスを提供する（入所）

- ①認知症から悲観的な言動、他者を攻撃してしまう等、不穏な状態が続く利用者に対して、多職種連携により、専門医への受診、内服の調整、ケアの方法を統一することによって、少しずつ不穏な症状が収まりチームが一丸となって対応できてよかった。また、11月にコロナ感染対応に伴い、入浴中止や居室対応の指示あり、利用者には不自由な生活が続いたが、ADL低下に繋がることはなく収束できたのは良かった。その後も職員健康チェック、定期的な抗原検査の実施等、感染予防策の徹底は継続している。
- ②感染、防災の業務継続計画（BCP）の作成は、ほぼ完成している。今後は実践的な訓練を行い、体制作りを整備し、職員に周知し、完成させていく。
- ③毎月虐待芽摘みチェック表を記入し、自分自身のケアを振り返ることによって、不適切ケアを未然に防ぐことは出来た。接遇面においては、スピーチロックを含めて、言葉の拘束があるということを職員が意識して対応していた。
- ④7月8日に坂井市広域連合より運営指導あり。書類、研修、加算の取得に対して各項目適正に運営されていると評価され、返戻事項もなかった。

2. 地域との信頼関係を築き、安心して在宅生活が継続できるように支えていく（短期）

- ①コロナ陽性発生により、保健所指示にて8/15～8/20、11/21～11/24の期間中ショート休止となり、利用者、家族には迷惑をかけることになったが、感染拡大にはならず、収束できたのは良かった。
- ②送迎時や連絡帳にて家族から状態を確認し、情報を共有することで、変化時には早期受診にもつながり、連携は図れていた。職員不足により、日曜が稼働できていない状態が続いている為、家族やケアマネの要望に応えられない時があった。

3. 風通しが良く、魅力ある職場を作り、職員が働きやすい環境を作る

- ①施設内にて実務者研修を実施、職員 2 名が受講し、資格取得する。その後介護福祉士を受験し 1 名合格し、資格取得する。また、認知症介護指導者研修を職員 1 名が修了証書を取得し、認知症介護指導者として施設内、外部の職員に対して、資質向上に努める。その他にも看取りや、認知症ケア等の研修会に各職員が参加し、スキルアップを図ることが出来た。
- ②業務改善を行う中で、腰痛帯の購入を促し、福利厚生として補助することで、職員の負担軽減に努める事が出来た。また、コロナ禍で制限も多く、ストレスが掛かるため面談を行い、日頃の悩みや思いを確認、必要に応じて異動をおこない、離職を未然に防ぐことが出来た。有給休暇も各チーム計画的に取得できたが、コロナ禍の中で陽性者、濃厚接触者となり、出勤者の減少、保健所指導より予防着使用でのケア対応による緊張感の継続、プライベートでも感染予防の行動制限がある中で、福祉職員としてのストレスは多く聞かれた。